

統 合 実 習



統 合 実 習

I. 目的

あらゆる対象の状況に応じて、既習の知識・技術を統合し、臨床での実践能力を養う。

II. 目標

1. 統合した知識をもとに対象の状態判断ができる。
2. 対象の状態に応じた援助方法の選択とその実施ができる。
3. チームの一員としての役割と協働、メンバーシップ、リーダーシップが理解できる。
4. 看護をマネジメントする基礎的能力とその必要性が理解できる。
5. 医療安全のための基礎的知識と技術が理解できる。
6. 卒業時の看護技術の修得状況が総合評価できる。
7. 将来の看護師としての自己の看護観を深めることができる。

III. 実習内容と時間数

実習科目名	単位 (時間数)	実習内容	実習場所	実習時間	実習日数
統合実習	2 単位 (90 時間)	全体オリエンテーション	学内	3.0 時間	2 日間
		看護管理 医療安全	学内	4.5 時間	
			慈恵第三病院	7.5 時間	
		看護実践 夜間実習	慈恵第三病院	75.0 時間 (15.0 時間)	10 日間 (2 日間)

IV. 実習の全体的な展開方法

学生	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
A	オリエンテーション 管理／医療安全	管理／医療安全	①	②	→		休	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
B			①	②	③	→		休	④	⑤	⑥	⑦	⑧
C			①	②	③	④	→		休	⑤	⑥	⑦	⑧
D			①	②	③	④	⑤	⑥	→		休	⑦	⑧
E			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	→		休	⑧
F			①	②	③	④	⑤	→		休	⑥	⑦	⑧

①～⑧：看護実践実習 → は夜間実習

V. カンファレンス

- 1) 病棟で開催されるカンファレンスに参加する。
- 2) 学生のカンファレンスは、必要時に実施する。受持ち患者の看護実践の過程での疑問や問題解決を図りたいこと等について話し合う。
- 3) 実習最終日は、15時から総合カンファレンスを実施する。

VI. 記録

1. 実習記録の種類

1) 一日の実習記録

管理実習及び夜間実習に臨むにあたり記載する。

2) 一日の看護業務計画

複数患者の状況を踏まえて毎日（日勤帯のみ）記載して臨む。

担当看護師及び受け持ち看護師に今日一日の援助計画の確認・指導を受けて、必要時、計画の修正を行う。

3) A4用紙

全体像：1週目の金曜日までに記述する。記載内容は、患者の背景・入院の目的及び入院までの経過・健康の段階・治療及び経過・現在の看護問題・看護及び治療の方向性など（各領域実習の全体像発表に準ずる）

2. 看護記録

病棟の看護記録には記載をしない。ただし、学校指定の看護記録用紙を用いて実習中に一度は体験をする。

3. 終了後レポート

テーマ：「統合実習での学び」各自サブテーマをつける。

書式：A4サイズ横書き 2000字以上、鉛筆不可

4. 実習終了後の記録提出についての留意事項

指定された期日に「一日の実習記録」、「一日の看護業務計画」、「全体像」、「看護記録用紙」、事前学習課題、終了後レポートと共にファイルに綴じて、実習終了翌週の月曜日の朝9：00までに担当教員へ提出する。

VII. 評価

所定の評価表を用いる。

実習状況・実習記録・カンファレンス・レポートから総合的に評価する。

全体オリエンテーション

1. 目的

統合実習の目標・内容・方法を理解し、自己の課題を明確にし、実習に臨む。

2. 目標

- 1) 実習目標・内容・方法が理解できる。
- 2) 看護実践実習の進め方と留意点ができる。
- 3) 管理・医療安全実習の進め方と留意点ができる。
- 4) 夜間実習の進め方と留意点ができる。
- 5) 卒業時看護技術到達度を評価し自己の課題ができる。

3. 方法

- 1) 実習時間 3時間
- 2) 実習場所 5F 研修室

実習配置グループ別に着席しておく。

3) 内容 以下の内容を実習調整者が説明する。

- ① 実習の目的・目標
- ② 修得単位と実習の内容に応じた実習場所と時間数及び実習日数
- ③ 看護実践実習（複数患者受け持ち）の進め方と留意点
- ④ 管理・医療安全実習の進め方と注意点
- ⑤ 夜間実習の進め方と留意点
- ⑥ 卒業時看護技術到達度の自己評価の仕方・現状と課題
- ⑦ 統合実習の評価の視点と評価基準

4. 記録

日々録に目標と学んだことや自己の課題を述べて翌日提出する。

5. 準備するもの

実習要綱，セーフティマネジメントマニュアル

看護実践実習

1. 目的

複数患者を受け持ち、チームの一員として看護実践するための基礎的能力を養う。

2. 目標

- 1) 複数受け持ち患者の全体像を描くことができる。
- 2) 受け持ち患者の看護業務計画の立案ができる。
- 3) 受け持ち患者の状態やニーズに合わせ、計画の修正ができる。
- 4) 安全性、安楽性、効率性、自立性を考慮し看護実践できる。
- 5) 看護業務計画の評価ができる。
- 6) チームの一員として自己の役割を考える。

3. 実習の進め方

- 1) 小児期・成人期・老年期にある対象を複数名（2名）受け持つ。
どのような段階にある人、状態にある人の看護をしたいか、自己の課題をもって臨む。
2名の受け持ち患者は同じチーム内で決定する。その場合様々な健康段階にある人、様々な日常生活援助自立度の人を組み合わせることが望ましい。
- 2) 担当看護師（学生の受け持ち患者2名を受け持っている看護師）に看護業務計画用紙（別途配布）に沿って行動調整を行ってもらい、前日に受け持ち患者2名の予定されている検査・処置、計画した援助を1日の時間で優先度を考えて計画し、朝再度確認して、担当看護師に調整してもらい。
- 3) 受け持ち患者2名の看護実践を行う。看護技術卒業時到達度Ⅰ及び慈恵基準Aの看護技術は、受け持ち患者に限り、受け持ち看護師の判断で学生1人で実施することができると判断された看護技術については1人での実施を可とする。学生は担当看護師に自己の看護技術の主観的到達度を踏まえて自己申請する。
- 4) 病棟及びチームの看護ケア全般の見学を中心とした参加を行う。
- 5) 点滴準備や処置等の診療の補助技術を見学及び一部実施する。領域実習終了後、各自が卒業時到達目標を意識して看護技術の評価をし、積極的に看護技術が経験できるようにする。
- 6) 援助の前後の報告は担当看護師に行うが、状況に応じてチームの看護師に行う。
- 7) 領域実習終了後、各自が卒業時到達目標を意識して看護技術の評価をし、積極的に看護技術が経験できるようにする。担当看護師と学生は開始時に1日の行動調整を行い、終了時15～30分程度その日の看護業務について振り返りをおこなう。
- 8) 病棟内及びチームで行われるカンファレンスや申し送りに参加する。
- 9) 受け持ち患者2名の全体像を1週目の最終日に担当教員に提出する。

4. 学生の病棟配置と担当教員

- 1) 小児期・成人期・老年期にある対象を受け持てる病棟
- 2) 3年生 10～11グループに編成し、1グループ3～6名。なるべく学生の深めたい分野や課題を考慮し決定する。1グループ（1病棟）につき教員1名が担当する。担当教員がチームに入り、看護教員と学生だけで患者のケアを行うことはなるべくしない。

看護管理・医療安全実習

1. 目的

病院組織の中の看護組織の役割や管理職の役割を理解し、組織の一員としての基礎的能力を養う。

2. 目標

- 1) 地域における病院の役割がわかる。
- 2) 病院組織における看護組織の位置づけがわかる。
- 3) 病院組織における医療安全管理の重要性がわかる。
- 4) 看護部長・師長・主任・リーダーナースの役割がわかる。
- 5) 他部門・多職種との連携や調整の実際がわかる。
- 6) 病院組織の一員としての自己の役割を考える。

3. 実習の進め方

- 1) 4.5時間の学内でのオリエンテーションを行う。

場所：5F 研修室 実習配置グループ別に着席しておく。

オリエンテーションに必要なパソコン・プロジェクター・マイクの準備片付けを行う。

- 2) オリエンテーションの内容は以下の通りである。

テーマ	時間	担当	内容
地域における第三病院の役割	1.5 時間	第三病院 院長	①第三病院の理念，基本方針 ②組織としての第三病院（組織図） ③病院長の役割，院長として大切にしていること ④第三病院の展望
病院組織における看護管理	1.5 時間	第三病院 看護部長	① 看護組織としての機能 ② 看護理念（ビジョン） ③ 看護方式と看護体制 ④ 看護部長・師長・主任の役割 ⑤ リーダ看護師の役割，担当看護師の役割 ⑥ 看護部長として大切にしていること
病院組織における医療安全管理	1.5 時間	第三病院 医療安全推進室	①医療安全管理体制 ②医療安全推進室の役割 ③医療問題報告システム ④災害時の対応，スタットコール

- 3) 病棟における看護管理は、7.5 時間（1 日間）で原則的に病棟師長及び主任についてシャドーイングしたり、説明を受ける。シャドーイング及び説明を受ける内容は以下の通りである。

病床管理の実際

職員・学生の教育

安全管理・物品管理

医療問題発生時の対応の実際

他部門との連携調整の実際

看護部組織のなかでの報告・連絡・調整の実際

職員の配置

勤務時間管理の実際

職員の健康管理

管理上大事に考えていることなど

- 4) 必要時カンファレンスで学びの共有をはかる。

4. 記録

オリエンテーションは、テーマ別に日々録にまとめ、翌日に提出する。

病棟における看護管理は、日々録にまとめ、翌日に提出する。

夜間実習

1. 目的

夜間の患者の様子や看護業務を知り、夜間の患者の安全・安楽を守るための行動のあり方を学ぶ。

2. 目標

- 1) 夜間の患者の様子を知り、必要な看護について考える。
- 2) 夜間の看護業務の役割と実際を知る。
- 3) 夜間のチームの一員としての行動のあり方を考える。
- 4) 夜間の多職種連携の実際を知る。

3. 実習の進め方

- 1) 実習時間は18:00～翌日9:00（15時間）とする。
- 2) 休憩は2時間とし病棟内で行い、時間や場所は夜間担当看護師の指示に従う。
- 3) 基本的には夜間の患者の様子や病棟業務の見学を中心とした参加型実習とする。
患者の様子は就寝前の様子、家族との面会時の反応、睡眠状況、夜間の患者心理などである。
病棟業務は食事介助、イブニング・モーニングケア、就寝の準備、睡眠の援助、巡視、患者の観察、その他特別な業務、申し送りなどとする。
- 4) 担当看護師と行動を共にし、看護師の動き、具体的な多数患者との関わりの場面、看護師同士のコミュニケーション、当直医師・師長との連携の場面を見学していく。
- 5) 受け持ち患者に限り、バイタルサインの測定など日中実施した経験のあるものは、看護師の判断のもと学生1人で実施可能とする。
- 6) 事前に夜間担当看護師に挨拶をしておく。
- 7) 18時に夜間担当教員による健康管理チェックを受け、確認してもらう。

4. 夜間の教員指導体制

- 1) 17～21時は教員1人体制とし、20～21時に全病棟を巡回し、担当看護師に実習の状況を確認する。
- 2) 夜間帯（21時以降8時まで）は、学校待機はしない。夜間用携帯電話を持って対応する。

5. 学生の安全管理

- 1) 家族に夜間実習であることは伝えておく。
- 2) 体調不良の場合は18時～21時までは夜間担当教員が対応する。夜間帯（21時以降8時まで）は、各病棟の責任者の判断で対応する。実習継続が不可能と判断された場合は、受診または各自自宅に帰宅する。

6. 記録

日々録にまとめ、翌日に提出する。

統合実習評価表

学生番号		学生氏名	
実習期間	年 月 日 ～ 年 月 日		実習病棟
出席状況	欠席時間数 時間		
評 価	点	学生署名	教員署名

*太枠内はボールペンで、A B C D及び自己評価は鉛筆で記入の上、提出する

	評価項目	A	B	C	D	自己評価	教員評価
看護 マネー ジメン ト	1. 病院組織における看護部の役割と特徴がわかる						
	2. 病棟の特殊性、日勤・夜勤の業務の流れがわかる						
	3. 部長・師長・主任・リーダナースの役割がわかる						
	4. 他部門、他職種との連携や調整の実際がわかる						
						/20	/20
医療安全	1. 病院組織における医療安全管理の意義と実際がわかる						
	2. 病棟における安全対策がわかる						
	3. アクシデント、インシデント発生後の対応の方法がわかる						
	4. 病院組織における防災対策がわかる						
						/20	/20
看護実践	1. 受け持ち患者の全体像の把握ができる						
	2. 受け持ち患者の看護業務計画の立案ができる						
	3. 受け持ち患者の状態やニーズに合わせ、計画の修正をし実施できる						
	4. 受持ち患者へ安全性、安楽性、効率性、自立性を考慮し実施できる						
	5. 看護業務計画の評価ができる						
	6. 夜間の患者の様子や受け持ち患者のニーズを把握しチームメンバーと協力して行動できる						
						/30	/30
態度	1. 医療専門職としての態度や身だしなみを守る						
	2. 自己の課題を明確にして臨み、評価できる						
	3. 事前準備、日々の学習が主体的に行える						
	4. 健康状態に留意し遅刻や欠席がない						
	5. 連絡・報告・相談ができる						
						/25	/25
レポート テーマ：							
						/5	/5
評価							

看護記録用紙(統合実習)

学生番号:

氏名：

[illegible]

慈恵第三看護専門学校

学生番号 _____ 氏名 _____